

平成30年1月10日  
駒の学び舎  
世田谷区立駒沢中学校  
校長 植田 和明  
学校関係者評価委員会事務局

## 平成30年度 学校自己評価報告書

### I 今年度の重点目標の取組

考察等	○「互いを尊重し、認め合う心」、「自ら進んで学ぼうとする態度」、「豊かな知力と健やかな身体」、「自己肯定感」「社会貢献の意欲」などに関する取組については肯定的評価が多い。特別活動をはじめ各教科、道徳など様々な場面での取組が進められている。 ○生活指導のスタンダードの取組については課題がみられる。
改善策	○生活指導についてはスタンダードの見直しを含め、教員の共通理解・共通実践を進めていく取組をあらためて見直していく。

### II 地域とともに子供を育てる教育

考察等	○便りやホームページでの情報発信、保護者の対応や保護者との連携など、保護者との関わりについては肯定的な評価が多い。 ○地域やPTAの活動に対しては取組が不十分と感じている。
改善策	○地域の活動やPTA活動については協力したくとも、休日や時間外の活動が多いためなかなか取り組めない事情がある。学校として、できる範囲の取組を積極的に進めていければと考える。

### III 未来を担う子どもを育てる教育

#### 1 教育課程・教育目標

考察等	○学校事務や教育計画に関する取組については肯定的な評価である。組織的な取組や理念的な理解については課題を感じる評価もある。
改善策	○計画の組織的な進行については課題がある。教務主任を中心に業務の進行管理を丁寧に行い、分掌主任との連携を一層図る。

#### 2 学習指導

考察等	○学習内容の基礎基本の定着への取組、授業計画の取組、評価・評定、ICTの活用など授業改善全般に関する取組については肯定的評価が多い。 ○教科日本語については、取組を進めている反面、その目的などの理解が浸透できていない面がある。 ○図書館活用については、その効果を理解しつつも実践に関して課題を感じている。
改善策	○教科日本語については、改めて研修等を通してそのねらいや指導法について確認し、効果的に取組が実践できるようにする。

#### 3 道徳・特別活動・総合的な学習の授業

考察等	○道徳・特別活動・総合的な学習の授業等の指導における計画的な取組については肯定的評価が多い。それぞれのねらいに応じた指導も進められているところである。 ○道徳的心情や判断力、実践力については課題としている教員もいる。日々の学校生活の様子から判断しているものと思われる。
改善策	○道徳の時間の指導が必ずしもすぐに日々の実践力にむすびづくものではない。まずは、道徳の時間のねらいに応じた指導の充実を積み重ねていく。特に「特別の教科 道徳」としての評価について校内研修を進めていく。

#### 4 学校行事

考察等	○学校行事に向かう生徒の意欲は高く、そのことに比例して教員の自己評価も高くなっている。
改善策	○行事について、常に精選と改善を図るとともに組織的な運営ができるよう取り組んでいく。

#### 5 健康体力・特色ある教育・世田谷9年教育

考察等	○体育科や養護教諭、運動部の顧問を中心に子供たちの健康や体力の維持向上にかかる取組を積極的に取り組んでいる。 ○9年教育については、学び舎の研修等を通して連携が進められている。
改善策	○運動に関する二極化が本校でもみられる。体育の授業の充実を図るとともに、家庭生活での運動の取組意識の向上を図る。食育の指導については、保健体育科、家庭科、養護教諭等と連携を図り取組を進めていく。

#### 6 キャリア教育・進路指導

考察等	○進路指導については、学年ごとにねらいに応じた指導を進めている。ただ、職業に関する指導と進学に関する指導が中心であり、今後、キャリア教育として幅広い視点から指導を進める。
改善策	○キャリア教育の充実を進め、基礎的・汎用的能力の育成に取り組む。

#### 7 特別支援教育・教育相談

考察等	○特別支援教育コーディネーターと教育相談主任を中心にその取組を進めている。本校は、情緒と聞こえの通級を併設しているので教員の意識（肯定的評価）も高い。半面、課題意識も強く、校内体制や個別指導等を課題としている。
改善策	○次年度より、区内全校で「特別支援教室（すまいるルーム）」の運用が始まる。拠点校である本校の強みを生かして、各担当との連携を取りながら「不登校対策」「カウンセリング」などの特別支援教育と教育相談の充実を図る。

#### 8 NIE・オリパラ教育・E S D

考察等	○NIE（新聞による教育）の取組は今年度よりスタートした。まだ読むことだけであるが、生徒は熱心に取り組んでいる。 ○オリパラ教育は担当者の保健体育科の教員を中心に各教科、道徳、総合的な学習の時間で取り組んでいるが教員により取組に温度差がある。 ○ユネスコスクールの取組については、意識的に取り組んでいる教員と、ユネスコスクールとしての意味や趣旨についての理解が不十分な教員がいる。
改善策	○NIEについては、「読む」取組から「書く」取組に進めていく。 ○ユネスコスクールの取組については、その趣旨や取組についての理解が深まるよう教員への周知を図ったうえで実践的な取組を進める。

#### 9 部活動

考察等	○肯定的評価が多く、生徒と同様に教員も意欲的に熱心に指導を行っている。同時に、どの教員も負担感を感じている面もあり、負担軽減の取組を学校としても進める必要がある。
改善策	○休養日の設定を含めガイドラインを明確にし、生徒と教員の負担軽減を図るとともに、一層の指導の充実を図る。

#### IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（学校運営・学校経営・学校評価）

考察等	○教員は学校経営の視点でそれぞれの取組に努力しており、肯定的評価も多い。ICTについては、まだ苦手意識をもっている教員も数名いる。 ○学校評価は適切に行われている。
改善策	○ICTについては、教員の実践力を高めるとともに、環境整備を一層進める。

#### IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（教職員・研修）

考察等	<ul style="list-style-type: none"><li>○教員は協力的に職務を進めているが、なかなか時間的に余裕がなくコミュニケーションが十分図れていると言えない現状がある。</li><li>○研修には前向きに取り組んでおり自身の課題解決に生かそうとしている。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>○時間に余裕がなければ、心にも余裕がもてない。業務改善を一層進めると同時により実践的な研修を行う。</li></ul>

#### IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（保健管理・安全管理）

考察等	<ul style="list-style-type: none"><li>○保健主任の養護教諭を中心に日々の保健管理に取り組んでいる。アレルギー、熱中症、感染症などの対応についても教員研修を実践するなど対応の共通理解を図っている。</li><li>○生活指導部の安全担当を中心に安全に関する様々な取組を行っている。特に、保護者・地域との連携を通して日々の安全に対する意識付けを行っている。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>○安全に関する取組は、より実践的な練習が大切である。様々なケースを設定した訓練を行っていく。</li></ul>

#### V 教育環境の整備（施設設備、出納・経理、文書・情報管理）

考察等	<ul style="list-style-type: none"><li>○決して環境が整っているのではないが、今ある環境の中で、環境の維持・改善、有効活用を進めている。ＩＣＴの設備に関してはまだ十分とは言えない。</li><li>○出納・経理などの予算管理や文書管理についても肯定的評価が多い。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>○施設にしても文書管理にしてもＩＣＴ機器にかかる問題が多い。世田谷区はシステム管理されているので、システムの能力を最大限に生かす取組を一層進める。</li></ul>